

01-008

保育施設へのAI導入に向けた支援ニーズの把握～保育士の困難感に関する定性調査～

村田 知佐恵¹、大塚 裕子^{2,3}、本村 陽一¹¹産業技術総合研究所 人工知能研究センター²社会福祉法人喜慈会³公立はこだて未来大学

【はじめに】

著者らの研究グループは、NEDO 委託事業「人間と相互理解できる次世代人工知能技術の研究開発」により、保育施設への人工知能（AI）導入プロジェクトを進めている。AI導入は手段であり、AIが効果的に機能するためには、実際に保育を提供する保育士目線からの目的設定や評価が重要となり、保育現場のニーズや価値観、評価構造に基づく支援や、定量的な効果評価を可能にする技術開発が必要になる。そこで本プロジェクトでは、人間行動センシングを含む映像分析やインテリジェントサイネージを活用した記録など既存AI技術の応用、保育記録やリスク予測のためのシステム構築の技術開発と並行して、「保育の質とは何か」を明らかにする大規模な定量調査を行う。本研究は、その前段階として、保育現場のニーズ把握を目的に、保育中の困難感に焦点を当てた定性調査を実施した。

【方法】

半構成的インタビューによる質的記述的研究。インタビューガイドを作成し、保育実践経験2年以上の保育士6名を対象にインタビューを実施した。逐語録から文脈を抽出し、得られたデータを質的に分析した。

【倫理的配慮】

研究協力者に研究の趣旨や方法、参加の自由意志、プライバシー保護などについて口頭と書面で説明し、同意を得た。

【結果】

保育士が抱える困難感について、6つの視点が得られた。1.保育士間での振り返り（リフレクション）や保護者対応の時間が不足している。2.子どもの様子の変化や気持ちを言葉以外の表情やしぐさから捉える技は、短期間では習得できない。3.特定の子どもの時間をかけて気づきを得ることができない。4.子ども全員の声を一度に拾えない。5.子どもの関心事に沿った情報収集に即時対応できず、子ども自身に調べてもらうツールもない。6.年齢期によって保育の難しさが違う。

【考察】

子どもとの関わりやリフレクションの実施、保護者対応に要する時間の確保や情報の収集・蓄積に、支援ニーズがあることが示された。また、本プロジェクトの映像分析や記録システムは、保育士間のリフレクション支援や、特定の子どもの注目した行動変容の把握を可能にするため、現場のニーズに対応していることが確認できた。さらに、音声分析や子ども用の情報検索ツールといった新たなニーズも示唆された。今後は、年齢期による保育の違いなど、今回の調査から得られた視点を考慮した大規模調査を実施し、保育の質向上を実現するAI導入を目指したい。

01-009

近年出版された教科書からみる保育内容「健康」の学習内容

澤田 孝二、澤田 由美

山梨学院短期大学 保育科

【はじめに】

保育内容「健康」は、他の4領域とともに、保育士資格、幼稚園教諭免許を取得するための必修科目として位置づけられており、保育士や教員を目指す学生の学びを支える教科書はいくつもの出版社から出され、多くの大学、短大、専門学校で採用されている。

本研究においては、近年出版された保育内容「健康」の教科書の中で扱われている内容を分析し、学ぶ学生にどのような知識や技術の習得を期待して、教科書が出版されているのかを考察してみることにした。

【方法】

近年出版された保育内容「健康」の教科書を8種類取り上げ、各教科書の中で扱われている内容を一覧表に整理していった。すなわち、各教科書の中で扱われていれば一覧表の該当欄に○印を付ける形をとり、表を見ることにより、どのような内容が多くの教科書で扱われているのか、逆に扱われることが少ないのか、○印の数である程度わかるようにした。そして、作成した一覧表に基づいて、多くの教科書で主要事項として扱われている内容、主要事項として扱われることが比較的少ない内容を明らかにしようとした。

【結果と考察】

分析した保育内容「健康」の8種類の教科書の半数以上で主要事項として取り上げられ、扱われる頻度が高かった内容には、子どもの基本的な生活習慣や生活リズム、子どもの安全管理や安全指導、子どもの心や体の発達、子どもの運動面の発達、食育への取り組み、保育者の役割、家庭との連携、領域健康のねらいや内容、戸外遊びの大切さなどが挙げられた。

逆に、重要な事項だと思われるが、意外と扱われる頻度が低かった内容には、保育者にとっての健康、子どもの健康を守るガイドライン、子どもの体力・運動能力の測定および評価、保育の計画や指導案の作成、保育の評価などが挙げられた。

このように、教科書の中で主要事項として扱われることが多かった内容には、子どもの健康安全、発育発達、睡眠・食事・運動など健康領域と関連の深い内容だけでなく、保育者の役割など専門職として子どもに関わるために必要な内容も取り上げられていることがわかったが一方で、保育者自身の健康、指導案の作成や評価に関する内容など、保育現場に出た時に必要になると思われる事項で比較的扱われることが少ない内容もあり、学生が卒業後に保育職や教育職に就いた時を見越して、さらに中身を充実させることが必要な部分もあるのではないかと考えられた。